

館報

No.21

1980.1.

巻頭言

増改築された蔵本分館
附属図書館予算の仕組
サンディエゴの小学校
附属図書館文化行事

巻頭言

松本淳治

昭和53年4月、徳島大学附属図書館長に就任して以来、私としては図書館をより良くしようとしていろいろなことを計画し、運営委員会にはかり、その実現に努めてきました。

この館報再刊もその一つであり、昭和39年9月に発刊された図書館報が13号(昭和46年10月)で中止され、14号からは「風だより」と改題され(昭和49年10月)、それも昭和51年6月に20号、同年10月に特別号が出されて止まっているのを続けるべく、本年から新しく「館報」として再出発することになった。この編集・発行には従来、図書館員が主として当たってきたが、運営委員にも参加してもらって編集委員会を作り、図書館の総力をあげて取り組むことにしました。したがってこの「館報」を見れば、徳島大学の図書館の運営はどうなっているのか、どのように利用されるのかなど、利用者の教官・学生の人たちに図書館をより身近なものとして分かってもらえる内容にしたいと考えております。

この際に図書館の現況についての説明と私の考えをのべておきます。

1. 予算のあり方

従来は常三島、蔵本両地区図書館としての必要経費を運営委員会で審議して、その決定額から、文部省配当による予算額を差し引いた残額を各学部の積算校費から同じ率による配分額によってまかなわれていた。*(「この際の学内配分額は共通経費としての性格をもち、図書館がなければ各部局が代って全学的規模において個別にしなければならない機能を、図書館が果たしているものであり、各部局が単純にその額だけ部局予算が削減されるかのように受け取りがちであるが、そのように考えるのは誤りである。)

長年の運営委員会での討議を参考にして、昭和53年度からは、受益者負担を加味した予算の立

* 「大学の研究・教育に対する図書館の在り方とその改革について(第二次報告)」昭和50年11月、国立大学協会。

て方として、総括業務に必要な本館経費、両地区図書館として物理的に必要な経費（光熱水料、人件費等）を共通として全学で負担し（ただし工業短大は学部の $\frac{1}{2}$ 、附属病院は定額50万円を負担）、残りの両地区の図書館活動として必要な経費については両地区の各学部の負担によることにした。文部省からの予算額は共通、両地区に3等分した。

その結果として図書館予算の弾力的運用が行われるようになりました。

2. 人件費について

図書館維持費における人件費の占める割合の大きいことは心苦しいことですが、そもそも学部・学科増設、学生増に伴う図書館定員増についての措置が本学では十分でなく、やむを得ず非常勤職員の雇傭によって埋合わせをさせられてきた。幸い、昭和53年より本部事務局、各学部のご協力により漸く2人の定員増があり、文部省情報図書館課から参考係1名増の配慮を頂き、僅かながらも人件費が減少してきている（人件費の占める率は昭和52年度68%、昭和54年度52%）。

夜間への開館延長の要求については、以前から利用者の声があったが、現有人員では勤務の負担増、それに伴う手当増額のために苦慮していたが、昭和53年度からその人件費については文部省情報図書館課から支給されることになり、適切な人が得られたので昭和54年6月から実施できることになった。しかし、夜間開館とはいえ閲覧業務だけであり、さらに定員増加を待つて参考・出納その他完全な図書館業務としての開館延長にしたいものです。

なお、本学図書館は後述のように理事館に選挙されているが、係数の少ないことでは中四国一番であり、ようやく昭和53年に分館に整理係が文部省・大学本部のご努力により増設されたが、それでも一番の位置は変わらず、さらに本館への受入係の増設を要望しているところである。

とにかく、最近の情報過多、多様化に対処するためには図書館職員の資質の向上を図らなければ将来ますますその処理は困難になることは必定であり、非常勤職員の漸減、専門職員の漸増を絶えず心掛けてゆかねばならない。

3. 図書館予算の有効使用について

図書館維持費として運営委員会で計上される予算には図書・雑誌の一次資料（直接に利用されるもの）にはほとんど当てられておらず、ことに教官に必要なものは各学部に配分された教官研究費から支出されており、そのような条件の下で当然おこることが雑誌の重複購入である。残念ながら本学では購入雑誌の重複度が高く、もし図書館予算の有効使用を全学的視野に立って考えて頂ければ、2冊同じ雑誌を買うよりも、その同じ予算で異なる雑誌を1冊ずつ買った方が利用者にとって有益なことは明白でしょう。しかも共同利用的精神の上立つならば、利用時間の公開されていない各所に散在するよりも、開館時間の明白な図書館に集中保存することが利用者にとって安易・有益であることも明らかでしょう。

また、昭和52年度から文部省から配当されている自然科学系外国雑誌の購入費は、購入された雑誌を図書館に置くことを前提としており、しかもその額は各大学図書館から毎年報告される雑

誌の集中率が参考にされていることをご承知おき願いたい。すなわち、重複をさけ、集中化することは一石二鳥であることをお考え願いたい。

もちろん、集中化するためには図書館収容面積の増大が必要ですが、現状でもある程度の収容は可能であり、将来はことに常三島地区における本館の増築が必要である。また、二次資料的なものとして、本学図書館としての雑誌目録が必要であり、これについては本館松本係長らの努力により、昭和53年に全学の欧文、54年に和文の雑誌目録がはじめて完成された。(19頁参照)さらに集中化した場合には、新着雑誌の内容を広く知ってもらうために内容標題をコピーした目次速報を出す必要があり、すでに本館では文部省配当による外国雑誌について、分館ではすべての雑誌から教官の希望するものについてのコンテンツ・サービスを行っています。(8頁参照)

4. 文化行事

昭和53年度から図書館への関心の高まりを図って、文化的行事として展覧会を大学祭に合わせて開催し、また開かれた大学の一端として学外者への公開日を設けた。幸い学内教官、館員のご協力により昭和54年度も開くことが出来ました。(詳細は12頁参照)。

5. 全国組織の中で

本学図書館は国立大学図書館協議会に属しており、それは全国を9地区に分けられ、本学は中四国地区に入り、昭和53年度から初めて広島大学と共に理事館に選ばれている。館長、事務長は1年2回の全国理事会に出席し、上記の協議会の重要事項の審議に参加している。また、分館は医学および薬学図書館協会に属し、沖田係長はその理事として活躍した。なお、国立大学図書館には特A・A・B・C・Dのクラス別があり(本学はC)、文部省の配分額はDを基準として倍数になっているが、その数値には納得できないところがあり、前記の国大協の第二次報告にもあるようにこのクラス別については将来、再検討が加えられるべきだと思っています。

6. 将来について

すでに述べてきたように本学附属図書館を良くするには、図書館職員の定員増、図書・雑誌の集中化を進めなければならないことは明らかです。しかし、これらのことは現在少しずつ進められており、それに加速度をつければよいと思いますが、その他に将来、新しく考えて実現に努力しなければと思うことについてあげてみます。

まず、図書館業務の機械化であり、学術情報サービスについては分館にJOISを備えて(8頁参照)開始しているが、その他に管理的業務としての図書館資料の受入・貸出業務、目録業務の機械化を図らねばならない。昭和54年より館内に電算化検討グループが発足しており(8頁参照)、将来は本部情報処理課、電算機センターとも連携を持ちながら実現しなければならない。実現の暁には業務組織の改編を必要とするようになると思われるが、その際に部・課長制を敷く契機になることを期待します。

現在、文部省では学術情報のネットワーク計画が進められており、その成果は大いに期待され

るが、将来はさらにそのサブ・ネットワークが考えられ、地理的・組織的条件から見ても医・歯・薬学部の図書業務を扱う分館は少なくとも四国地区のライフ・サイエンス関係のセンター図書館となる心構えを持たねばならないだろう。

将来、大学図書館の在り方は大学の教育の在り方に平行して進まねばならない。すなわち、視聴覚教育が提唱されているように図書館も目で見える図書以外の資料、その活用手段について考えねばならず、外国語学習、学術映画上映、音楽鑑賞などの出来る立派な視聴覚室あるいは棟の建設を必要とするだろう。

一方、図書館の蔵書数は10年に2倍になると言われているように、書庫の増築（とくに資料の集中化に伴う本館の増築）は不可欠であり、一面、汚損・破損その他による廃棄処分を要する資料についての基準を設けて実施し、また利用度の低下した資料については保存書庫を学内に設けて、その移し替えを計画することも要するだろう（さらには地域レベル・国レベルでの保存図書館の設置が必要になる）。

なお、図書以外の資料といえ、日本の大学には見られない博物館的な要素も図書館は備えなければならないだろう。

以上は本学図書館の10年、あるいは20年先の将来像にも及ぶ考えを述べたものであり、もちろん徳島大学の将来像に結びつかなければならない（その意味では図書館長の評議員としての評議会、部局長として現在の学部長会議に代る部局長会議に出席することも必要になるであろう）。また、本学を含めて、大学図書館の現状としては、学習図書館、研究図書館に分けられるが、一方に偏しては大学図書館の使命を果たすことはできない。ことに新制大学は一様に一般教育課程が設けられており、研究図書館サイドの改革も必要であるが、将来の研究者である学生の学習と教養の重要な場としての大学図書館の教育的機能の整備・充実をより一層に図らねばならないだろう。

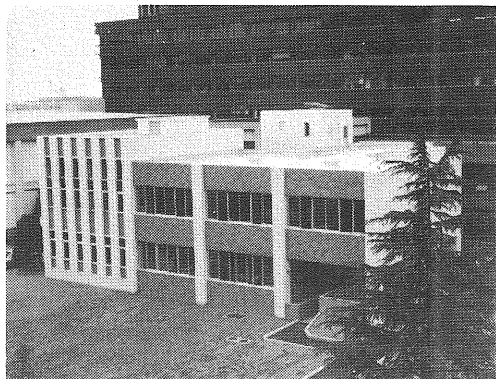
（附属図書館長）

館長・分館長・運営委員

館長	(医学部)	松本 淳治	53. 4. 2 ~ 55. 4. 1		
分館長	(薬学部)	亀谷 富士夫	53. 4. 1 ~ 55. 3. 31		
附属図書館運営委員					
教育学部	本 多	浩	55. 2. 29まで	遠藤 潤一	55. 3. 31まで
医学部	桧 沢	一夫	55. 3. 31 "	斉藤 史郎	" "
歯学部	高 田	充	" "	西野 瑞穂	" "
薬学部	山 下	卓哉	" "	寺田 弘	55. 2. 29 "
工学部	杉 尾	捨三郎	" "	浦川 和馬	" "
教養部	鈴 木	隆史	55. 2. 29 "	後藤 寿夫	55. 3. 31 "

増改築された蔵本分館

沖 田 学



—増改築の概要—

当分館は、医学部開学15周年記念事業として、文部省と大学内外の協力で、昭和38年に竣工、その後薬学部、歯学部の開設により、医・歯・薬3学部共通図書館として利用、蔵書の増大により、施設の狭小をきたし、昨年度文部省、大学関係者の理解と協力により、現在の建物(2階建書庫4層延1,541 m²)の南に2階建(約840m²)の増築と、更に現建物の一部模様替が行われた。(増改築工事費1億8千万円)その後5月に、管理部門と閲覧室を移転し、旧設備のままで、閲覧業務を実施している。近く予定の内容設備の実施、旧書庫の雑誌の移転により、いよいよ閲覧業務が軌道にのる予定である。

—建物の概要—

1. 位置、建物

医学部、同附属病院、歯学部、同附属病院、薬学部に周囲をかこまれた、蔵本地区に残された唯一の緑地帯で、図書館として、理想的な立地といえる。建物の増築部分は、将来の3階の増築が可能で、従来の図書館のイメージを変えたといえる。増築は、現建物の西の部分を、南に接続した2階建であり、利用の面から、従来の北玄関はそのままとし、新しくここに南入口を設け、ここから円筒型の階段かエレベーターにより、2階の閲覧室受付に通

ずることになっている。南入口の外側は、入口に通ずるスロープ、循環式三段の池、植込等の環境の点も十分といえる。平面図を添付したが、簡単に概要について下に述べる。

2. 一階

・玄関(南入口)

従来よりの北玄関は、主として歯学部、薬学部、南入口は、図書館の南にある医学部、東にある医学部病院利用者の出入口として、いずれも新しい南入口を入った、ホールつき当りの円筒形の階段又は、エレベーターを使って、2階カウンター受付に通ずることになっている。エレベーターは、南入口外側に設けられたスロープと共に、身体障害者用として、特に当館の如き自然科学系図書館における最も利用率の高い、重量のある製本雑誌の、ショッピングカー等を使っての借用、返納等には必須の施設である。

・事務室(147.56m²)

南入口を入ると、南側が事務室(受入係、整理係)、分館長室で、従来事務室は非常に狭小で、管理・運営上支障をきたしていたが、これで本格的な運営が可能となった。

・新聞閲覧室(36m²)

玄関を入った正面に従来通り、日刊新聞(10種)、休憩ソファが備付けてある。

・ロッカー室(9.92m²)

玄関を入った西側に現在72名の設備があるが、更に通路に30名程度の増設を予定している。南入口からの入館者も、すべてここを利用することになっている。

・セミナー室(55.2m²)

新しい30名程度利用出来る演習室で、近く映写設備等の整備を計画している。

3. 二階

・学習図書閲覧室(309m²)

学生用図書及び百科事典、辞書等、和洋書9,000冊を、主として北側の書架に配架し、南側に約80席の座席の予定である。

・研究図書閲覧室 (215.5m²)

絨綴をしき、製本されるまでの内外の新刊専門誌及び二次資料を配架展示し、座席は40席を予定している。

・休憩室 (15.6m²)

新刊の教養雑誌、綴込新聞等を備付け、近く冷水器の取付けを予定している。

・目録室 (24m²)

昭和42年までの受入カードが整備され、以後は冊子体目録を備付けている。西側の書架に参考図書を配架して利用に供している。

・視聴覚室 (24m²)

現在語学のラボ等を一部備付けているが、年次計画により、視聴覚教材を整備することになっている。

・カウンター、運用業務室 (61.2m²)

カウンター、運用業務室では下記業務を行っている。

- (1) 閲覧、図書の出納(貸出、返納)手続
- (2) 参考業務(資料に関するあらゆる質問受付)
- (3) 文献複写
- (4) 学外との文献の相互利用(テレックスによる申込等)
- (5) J O I S オンライン文献情報検索(公衆回線による)サービス

4. 書庫

・新館 (209m²)

2階建て増築基準の関係で、書庫のスペースが少なくなったので、今後の増加冊数を見込み、2階の部分をも2層として、書庫全体として、収蔵冊数をふやし、約35,000冊の製本雑誌を収蔵することになっている。一部書架の取付けが近く行われるのを待って、旧書庫の外国雑誌を移転する予定である

・旧館 (626.48m²)

4階建てで、2・3階に収蔵している外国雑誌を新書庫に移転し、利用に便利な3階、4階に現在4階の和雑誌を再配架する予定である。

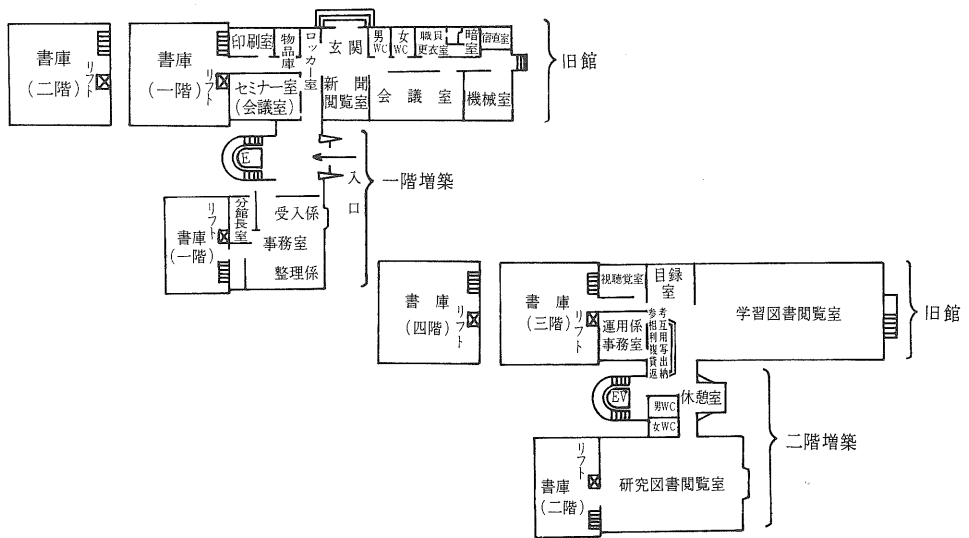
—むすび—

図書館は一朝にして、充実したものにはならない。建物ができると、その内容まで充実した如くに解釈されがちである。要は、その図書館を運営する館員の心構えと、不断に努力を重ねてこそ、大学図書館関係者の理解と協力を得る事ができ、その機能をフルに発揮することになる。

増改築による施設の整備で、分館の将来計画である“四国地区ライフ・サイエンス情報センター設置”の構想がレールの上ののったといえる。

(分館受入係長)

蔵本分館平面図



附属図書館予算の仕組

附属図書館予算は、大別して文部省から配当の図書館経費、図書館設備費と、学内部局からの図書館経費、学生用図書購入費（学内協力額）とがあります。

文部省からの図書館経費は、図書館のクラス別維持費予算（本学図書館は、Cクラス）と、庁費等から成っており、学内部局からの図書館経費は、共通・常三島地区・蔵本地区（巻頭言参照）を合わせたもので、比率は、図1、のとおりです。図書館経費は、賃金、光熱水料、通信運搬、役務、備品、消耗品等の支払に充てる予算です。

文部省からの図書館設備費は、学生用図書購入費、参考図書購入費、外国雑誌購入費で、配当された予算では、目的に応じた図書、雑誌を購入します。

学内部局からの学生用図書購入費（学内協力額）は、文部省から配当の学生用図書購入費と合わせて購入しています。図2。

その他、学生厚生補導経費から教養図書購入費の学内配分があります。

図1. 図書館経費

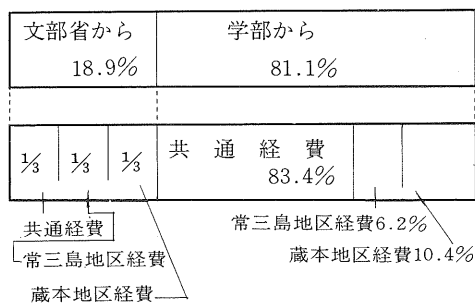
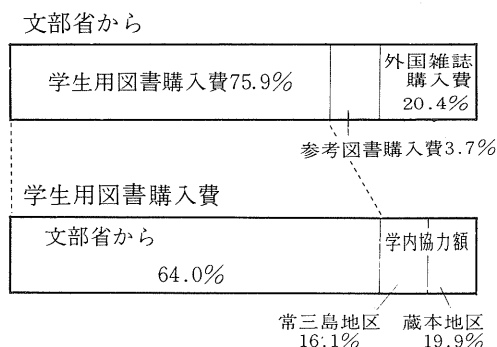


図2. 図書館設備費



資料費

(昭和53年度)

	図 書		雑 誌		そ の 他		計	
	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円
附属図書館本	60,892		41,997		1,242			104,131
蔵分本館	19,233		34,077		-			53,310
計	80,125		76,074		1,242			157,441

運営費

(昭和53年度)

	人 件 費		備品費	消 耗 品	印 刷 費	その他	計	
	職員給与	賃 金					千円	千円
附属図書館本	40,676	14,953	673	1,200	2,176	6,069		65,737
蔵分本館	25,156	8,956	1,400	755	3,900	3,575		43,742
計	65,832	23,909	2,073	1,955	6,076	9,634		109,479

学外文献複写の利用の改善について

一国立大学からの文献コピーの 入手が簡単で早くなりました一

昭和54年4月から、国立大学等（国立短期大学、国立高等専門学校を含む）間における文献複写業務の取扱要領が変更になりました。主な変更の内容は、従来複写料金の支払、収納方法が複雑であるため業務の円滑な遂行が妨げられている面があったが、国立大学等間における文献複写料金に限り、校費支弁、私費支弁に拘らず、その決済等の方式を予算の振替により行うこととして合理化することにより文献相互利用の促進を計ったことです。

利用者にとって改善された点を具体的にあげると、**私費支弁**で国立大学等へ学外文献コピーを依頼した場合、依頼先館から複写料金（B4 1枚45円）の通知と**(1)同時に文献コピーも送付され**（複写料金を送金しないと文献コピーが送付されなかった）、また**(2)複写料金は従来郵便局または銀行から依頼先館へ送金していたが、かわって自館の会計係へ払込めばよく**、文献コピーを簡単で早く入手できるようになりました。ただし、国立大学等以外（私立大学、国会図書館その他機関）へ依頼した場合は、従前通り依頼先館への複写料の送金が必要です。また、校費支弁の場合も従来通りで変わりません。

なお、学内の文献複写も従来通り実施して

おりますので(複写料金 B4 1枚 校費20円, 私費40円), あわせてご利用下さい。

時間外閲覧業務延長について

附属図書館では, 54年6月11日から従来の閲覧業務の時間を延長して月曜日から金曜日は, 午後5時から午後8時まで, 土曜日は, 午後0時30分から午後4時30分まで, 開館して閲覧業務を実施しています。ただし, 学生休業日(夏休み, 冬休み, 春休み等)は月曜日から金曜日は午後5時まで, 土曜日は午後0時30分までとなっています。

附属図書館電算化検討グループ発足

附属図書館では, すべての業務の機械化を検討するため, 電算化検討グループを発足し, 54年6月から月2回の会合をもち, 現在雑誌の取扱い業務全般について検討しています。将来は一段一段と階を重ねてより高く図書館業務全般にまで進めたいと願っております。

JOISオンライン文献情報検索について

研究において研究課題に必要な文献情報をうるために費やされる時間と労力は決して少なくありません。この問題を解消する目的で, 昭和53年11月より蔵本分館において日本科学技術情報センター(JICST)が開発した

メンバーは

上田, 岡田, 尾原, 河田, 近藤,
齊藤, 桜木, ○助岡, 三井, 芳川
の10名で組織しています。

○印はチーフ

外国雑誌の目次速報について

昭和52年度より文部省から自然科学系外国雑誌予算が配賦され, これで購入した外国雑誌は附属図書館に備付け学内の共同利用に供されていることは周知の通りですが, この共同利用の実を一段とあげるため, 昭和53年10月より自然科学系購読外国雑誌(分館ではこのほか学内予算による購読外国雑誌もあわせて)の目次速報を実施しております。

目次速報は, 希望誌各号の目次の部分を到着の都度コピーして希望教室(または個人)へ配布するもので, 費用はコピー料(雑誌により異なる)として校費支弁でお願いしております。ご利用ください。

JOIS(JICST Online Information System)を導入し, 短時間で必要な文献情報を入手することが可能になりました。下記によりご利用ください。

記

1. 利用できるもの 本学の教職員 校費に限る
2. 検索できるファイル

ファイル名	蓄積期間	情報量	分野	情報源	備考
JICST 理工学文献 ファイル	1975年4月～ 現在	約36万件/年	理工学 全般	雑誌(8500種) レポート 会議資料	JICST発行の「科学 技術文献速報」に対応
CAS化学文 献ファイル	1976年1月～ 現在	約38万件/年	化学 化学工業	雑誌(14000種) レポート・図書 学位論文特許 (27ヶ国)	米国Chemical Abstracts Service発行の「Chemical Abstracts」に対応

MEDLARS 医学文献ファイル	1975年1月～ 現在	約25万件/年	医 学 薬 学	雑誌(2300種) モノグラフ	米国 National Library of Medicine 発行の 「Index Medicus」に対応
TOX 毒性文 献ファイル	1975年1月～ 現在	約12万件/年	毒 物 学	雑誌(14000種) レポート・学 位論文 特許(26ヶ国)	7種の部分ファイルで構成
クリアリング ファイル	1976年度～ 現在	約1.5万件/年	理 工 学 全 般	アンケート 結果	国内の公共試験研究機関約 400 機関で行なっている研 究テーマを対象

(注)：各ファイルとも書誌の事項，キーワード，分類などを含まれますが抄録は含まれません。また，すべて英字，カナ文字で入力されています。

3. 利用受付時間

	月	火	水	木	金
10:00～16:00	J I C S T M E D . T O X . C L E A R	J I C S T C A S C L E A R	J I C S T C A S M E D . C L E A R	J I C S T M E D . T O X . C L E A R	J I C S T C A S C L E A R

(注) J I C S Tは J I C S T理工学文献ファイル； C A SはCAS化学文献ファイル； M E D . はMEDLARS医学文献ファイル； T O X . はTOXLINE 毒性文献ファイル； C L E A Rはクリアリングファイルを示します。

4. 利用料金

種 別	オンライン利用料	オフライン利用料
基 本 料	200円/回	200円/回
端 末 使 用 料	MEDLARS JICST, クリアリング	180円/分
	C A S	297円/分
	T O X	250円/分
電 話 料	60円/分	60円/分
オ フ ラ イ ン 回 答 料	手 配 料	500円/回
	MEDLARS JICST, クリアリング	15円/件
	C A S	39円/件
	T O X	22円/件

(注)：出力件数が20件以上になりますと，オフラインの方が安くなります。

郵送で2～3日です。

5. 利用申込場所 蔵本分館運用係
(2階, 内線6516)

ユーが必要ですので，申込者は申込書
に記入の上，担当者をご相談ください。

6. 検索は分館担当者がおこないます。検
索には検索の組立てのためのインタビ

7. 検索した文献情報資料は複製できませ
ん。

・ サンディエゴの小学校

山下伸典

昭和51年10月から1年間米国のカリフォルニア大学サンディエゴ校(UCSD)へ文部省在外研究員として派遣された。その間の体験記をと、筆をとったが、米国の風物その他に関しては諸先輩により種々の形で紹介されているので、サンディエゴの小学校教育と言う非常に狭く、限定した表題で以下続けたいと思う。

御存知の如く、サンディエゴはカリフォルニア州の最南端に位置し、メキシコ領ティファナと境界を接し、ロスアンゼルスへは約100マイルで、人口約150万の市である。米国海軍の軍港としても有名であり、大西洋を最初にノンストップ横断に成功したC. A. Lindberghの愛機Spirit of St. Louisが作られた所としても知られている。気候は温暖で、雨量少なく市内外には大きな公園、動物園、水族館、その他の文化施設が完備され、米国人特に北部あるいは東部の人達には理想境のように思われているようである。

学校、建物、その他の文化施設には有名人の名を付したものが多く、たとえばLindbergh小学校、Marie Curie小学、Barboa公園、Lindbergh空港、Urey Hallなどである。

まず、サンディエゴ市立小学校の、ある一日より紹介しよう。夏時間の季節では、朝7時頃ともなると、町の辻々の交差点には、赤い帽子をかぶり、先端にSTOPと大書きした円板のついた長い棒をもった子供と、笛をもった子供が二人一組となって交通整理を始める。手に手にlunch boxを持った低学年の子供達が母親の運転する自動車で学校近くまで送られ、あるいは、徒歩で学校に集まり、丁度8時になると、金網で出来た塀が閉じられる(冬期時間では30分遅くなる。)小学校にはVolunteerの子供のためのpre-schoolと、全入制のKinder Gartenが付置されている。小学校は、Grade OneからGrade Sixまでに分かれている。全ての学級は4~5人の班で構成

され、グループ教育が重視されている。特に、Grade Threeまでの初期教育(ECE:Early Childhood Education)を徹底させるために、各班に教師の他1名ずつのAide (Volunteer経験5年以上の補助者)と、若干名のVolunteerがつく(1972年発足)。授業では、反復練習による徹底的な学習に重点が置かれているように思われる。昼の食事は、近くの子供は家で、遠い子供あるいは家庭の事情で帰ることの出来ない子供は、昼食券(1週間または1ヶ月綴りの券)を利用して食堂で済ませる。午後1時40分~2時になると、子供達は、登校の時と同様な方法で帰宅する。Baby Sitterの所へ行く子供もあるようである。

一年を通じて、二つの教育体系が行われている。その1つは、従来の体系であるTraditional (又はConventional) Schoolであり、他の1つは、全く新しいYRS (Year-Round-School) である。前者は、よく知られているように、9月中旬に新学期が始まり、12月中旬から2週間の冬期休業、3月下旬から1週間の春期休業を経て6月下旬までの授業があり、1年15週間の休業がある。6月下旬から9月中旬までの12週間の夏期休業中には、Summer School (任意)も開かれる。一方、YRSでは、1年を均等に4つの学期(Term)に分け、6月下旬より新学期が始まる。学期間には、約4週間の休業を挟み、年間の休業期を15週間としている。休業中でも3~2週間のIntersession (任意)がある。もし、全ての授業に出席したと仮定すれば、1年間で5週間の休業となる。YRSが発足した理由は、生涯教育の一環としての小学校教育の徹底、教育設備の効率的な利用、保護者と子供との意志の疎通などが考えられているようだ。

1つの学期が終ると、子供1人1人に成績簿(Growth Report)が渡される。評価の対称は(Reading), (Mathematics), (Oral Language), (Written Language), (Spelling), (Handwriting), (Social Studies, Science & Health), (Art), (Music), (Physical Education)と(Attitudes and Citizenship)である。評価は4段階で、(Very Good Pro-

gress), (Good Progress), (Experiencing Difficulty), (Not Evaluated at This Time) である。成績の優秀な子供は、学期末になると、教師より Advanced Class へ進むように申し渡される。一定の試行期間を経て、充分適応出来ることが確認されれば、そのままに、出来ないときは元の class に戻る。また、悪い子供は、下の class に入り、充分に実力が発揮できるようになっている。

つぎに、Volunteer 活動について述べる。この活動は、小学校教育と密接な関係にあり、特に ECE とは不可欠の存在とも言える。すなわち、活動範囲は広く、ECE 計画作成の補助、教室での教師の補助、教材の作成、健康管理、図書館管理、建物や運動場の整備などである。したがって、人材も広範囲の人達を必要とし、特に、専門的知識、あるいは、技術を持った人達が喜ばれるようである。しかし、活動は厳しく管理されており、学校管理者、あるいは、教師が教育に対して全責任を負っており、Volunteer はあくまで補助者であることを明確にしている。逆に、責任ある立場の人達は、この制度を有効に利用し、教育効果を高めなければならないので、その職務は重大である。

以上、サンディエゴ市の一小学校について見聞したことを走り書きした。しかし、浅学菲才の身ならば、博聞博識の諸兄により補完、訂正していただければ幸である。

(薬学部助教授)

図書館にこんな便利な機械があります

製本機、エレファックスの利用案内

学術雑誌・コピー文献等の整理用として簡易製本機を、図面等の拡大及び縮小用として、エレファックス(本館のみ)とを、校費に限り附属図書館総務係(内線340)及び蔵本分館受入係(内線6511)で受付けておりますので、御利用下さい。

利用の際は、所定の申込書に必要事項を記

入した後、各自で製本または複写を行って下さい。(操作は簡単です。)

製本機及びエレファックスの使用料金は、次のとおりです。

1. 簡易製本機 A4判 B5判

厚手表紙 色： { 白 1枚 90円 70円
青

薄手表紙 色：

{ サーモンピンク
クリーム 1枚 70円 50円
グリーン

2. エレファックス(本館のみ)(倍率0.7~1.4)

使用用紙 色： { ピンク 40円※
(B4 サイズ) { 白 25円

※ピンクの用紙は、謄写版(輪転機)による印刷が可能です。

料金は、校費による文献複写等と同様予算振替で精算します。

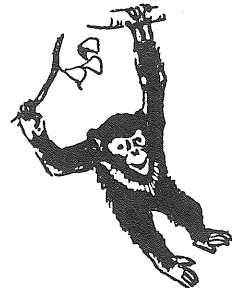
マイクロフィルム複写機の案内

マイクロフィルムの複写には、必要とする頁を読みながらハードコピーのとれるリーダープリンターが重宝です。

本館には、ミノルタリーダープリンターRP-405を備えてつけてあります。

いつでも、どのような種類のフィルムからでもコピーが可能で、申込は文献複写の様式と同じです。料金は校費も私費も1枚40円となっております。

ハードコピーの大きさは、B5判縦(25.7×17.8cm)どり、A4判縦(29.7×21cm)、横(21×29.7cm)とA判変形(29.7×29.7cm)の4種類となっております。



附属図書館文化行事

日本近代文学展

—名著（復刻）と作家の筆跡の展観—

とかく世情・人心が外向的、割り切った精神へ走る傾向に対してバランスを保つために内向的、割り切れない精神を養うべく静かに考えるよすがにでもという願いから文化行事を催すことにした。

第1回は「日本近代文学展——名著（復刻）と作家の筆跡の展観」を教育学部国文学研究室（本多教官）、日本近代文学館の御協力によって開催した。期間は昭和53年11月1日から14日までの12日間、5日、日曜日は一般公開し学外者にも見てもらった。入場者は合計928名、（含学外者118名）NHK、四国放送、徳島新聞によっても報道され、その内容が紹介された。

本館および、教育学部国文学研究室所蔵の名著復刻本約150点が机上に並べられた。思いのまま手に取って見れるようにしたので、入場者は思いのまま頁をめくり、目で見るだけでなく手にとることができた点好評であった。全集や文庫本と異なり、初版本の味わいは充分に示すことができたと思う。また雑誌「明星」「スバル」「朝日新聞」のマイクロ等、本館所蔵の資料も合わせ展示した。その他御好意によって展示した伊原青々園宛 国木田独歩書簡、室生犀星の詩稿、谷川俊太郎の色紙などの原物を展観に色をそえた。

壁面には作家、詩人の色紙（複製）を展示、それぞれ個性的な筆跡が入場者を楽しませた。その他、島崎藤村らの墓、文学碑、石川啄木の履歴書、夏目漱石の卒業証書及び辞令、獄中の夫、宮本顕治宛百合子書簡、師太宰治の墓前で書いた田中英光の遺書等の写真、「金色夜叉」、「ごりえ」、「雁」などの名作の舞台写真、映画のスチールなど壁面を飾った。

一隅に休憩用に椅子を置いたりして入場者にゆっくりと見られるように配慮した。第一回の行事としては、その内容、入場者数等まず成功といえるであろう。

日本現代地図展

—近代地図の歴史—

今年で2回目となる附属図書館の文化行事は、教育学部（阿子島教官）・教養部（大西教官）の地理学研究室の御協力によって、「日本現代地図展——近代地図の歴史——」を開催した。

現代地図の基礎となった「伊能図」をはじめ、地籍図などの歴史的な官製図から、それぞれの用途に応じた種々の現代の応用地図など、また地図の使用方法や地図記号の変遷などのパネル、地図に関係ある図書などあわせて百点ほどの展示となった。また、地図展を機会にそろえた参謀本部刊の徳島県関係の旧版地形図（明治29年～昭和10年代の改版ごと。縮尺1/25,000、1/50,000など）の複製品、約200点の閲覧ができるようにした。

期間は11月9日（金）から18日（日）までの10日間で、そのうち11日と18日の日曜日は学外者に特別公開をした。

期間中の入場者数は、学内者 424名、学外者 156名であった。

なお入場者が特に興味をもったとみられるものには、伊能図とそれを参考にしてイギリス人が描いたといわれる海図、戦時中に蔵本地区（現医学部周辺）の軍事施設が改描されていた縮尺1/50,000地形図などであった。

この開催についての広報として、NHK、四国放送、徳島新聞などのマス・コミにお願いすると共に、館側でもビラを作成し処々に貼付した。特に四国放送では「おはよう徳島」のなかの「ふるさと年輪」で放送のため11月12日に2時間にわたりビデオ撮りをして13日の朝に約10分間放映された。

この地図展の目録には、付録として附属図書館所蔵の古地図のリストを併載し、今後の古地図の利用の便をはかっている。

会 議

附属図書館運営委員会

第1回 4月23日 (於 附属図書館)

議 題

1. 附属図書館の本年度運営方針について
 - (1) 予算のあり方について
 - (2) 図書館予算の有効使用について
2. 昭和55年度概算要求について

第2回 5月21日 (於 附属図書館)

議 題

1. 徳島大学附属図書館利用規則の一部改正について
2. 昭和53年度附属図書館維持費の決算について
3. 昭和54年度附属図書館経費について
4. 附属図書館長選考の在り方について

第3回 6月4日 (於 附属図書館)

議 題

1. 昭和54年度附属図書館経費について (継続)
2. 附属図書館長選考の在り方について (継続)

第4回 7月9日 (於 蔵本分館)

議 題

1. 学生用図書購入費の配分について
2. 参考図書購入費の配分について
3. 附属図書館長選考の在り方について (継続)

第5回 9月17日 (於 附属図書館)

議 題

1. 外国雑誌購入費の配分について
2. 教養図書購入費の配分について
3. 附属図書館文化行事について
4. 附属図書館長選考の在り方について (継続)

第6回 11月12日 (於 蔵本分館)

議 題

1. 館長候補者となるべき者の推薦について
2. 分館長候補適任者の推薦について
3. 運営委員会委員の推薦について

第7回 12月21日 (於 附属図書館)

議 題

1. 学生用図書購入費(追加分)の配分について

出 張

(昭和54年4月1日～11月30日)

- 4月13日 日本端末研究会(於 なにわ会館) 出席者 分館運用係 近藤 英子
- 4月16日 CA Search 化学文献ファイル説明会(於 日本科学技術情報センター大阪支所) 出席者 分館運用係 近藤 英子
- 5月10日 第27回中国四国地区大学図書館協議会総会(当番館 岡山大学附属図書館) 出席者 館長 松本 淳治, 事務長 世戸 守
- 5月16日 昭和54年度国立大学附属図書館事務(部課)長会議(文部省) 出席者 事務長 世戸 守
- 5月18日 理事会(昭和53年度第3回)(於 東京大学附属図書館) 出席者 館長 松本 淳治
- 5月22日 第15回日本医学図書館協会中国四国部会(於 広島大学附属図書館医学分館) 出席者 分館 受入係長 沖田 学, 同係 上田智一
- 6月21日 第26回国立大学図書館協議会総会(於 大阪科学技術センター) 出席者 館長 松本 淳治, 事務長 世戸 守
- 7月13日 昭和54年度日本薬学図書館協議会近畿・四国・中国地区総会(於 京大会館) 出席者 分館運用係長 河田 政雄
- 7月18日 JOIS:SSIE 米国研究案内ファイルの説明会(於 大阪科学技術センター) 出席者 分館運用係 近藤 英子
- 8月6日 昭和54年度大学図書館職員長期研修(文部省, 東京大学) 出席者 総務係 桜木 強

- 8月22日 第14回医学図書館員研究集会(於 東
~24日 京慈恵医科大学附属図書館)
出席者 分館整理係 齊藤 友子
- 10月12日 昭和54年度日本薬学図書館協議会研究
~13日 集会(於 愛知会館) 出席者 分館
整理係長 尾原 忠雄
- 10月18日 理事会(昭和54年度,第2回)(於 名古屋
共済会館)出席者 館長 松本 淳治
事務長 世戸 守
- 10月19日 国立国会図書館長と大学等図書館長と
の懇談会(於 松山商科大学図書館)
出席者 館長 松本 淳治 整理係
芳川 詩
- 10月25日 第50回日本医学図書館協会総会(於
~26日 日本大学医学部図書館) 出席者 分
館受入係長 沖田 学 分館運用係
長 河田政雄
- 11月7日 第20回中国四国地区大学図書館研究集
~9日 会(於 香川大学附属図書館)参加者
整理係 岡田 恵子, 分館受入係 上
田 智一, 分館運用係 三井 忠臣
- 11月27日 I M I C公開講座 1979 -メディカル
~28日 ドクメンテーション医学文献を扱う人
のために- (於 大阪 日本生命中之島
研修所)
出席者 分館運用係 近藤 英子

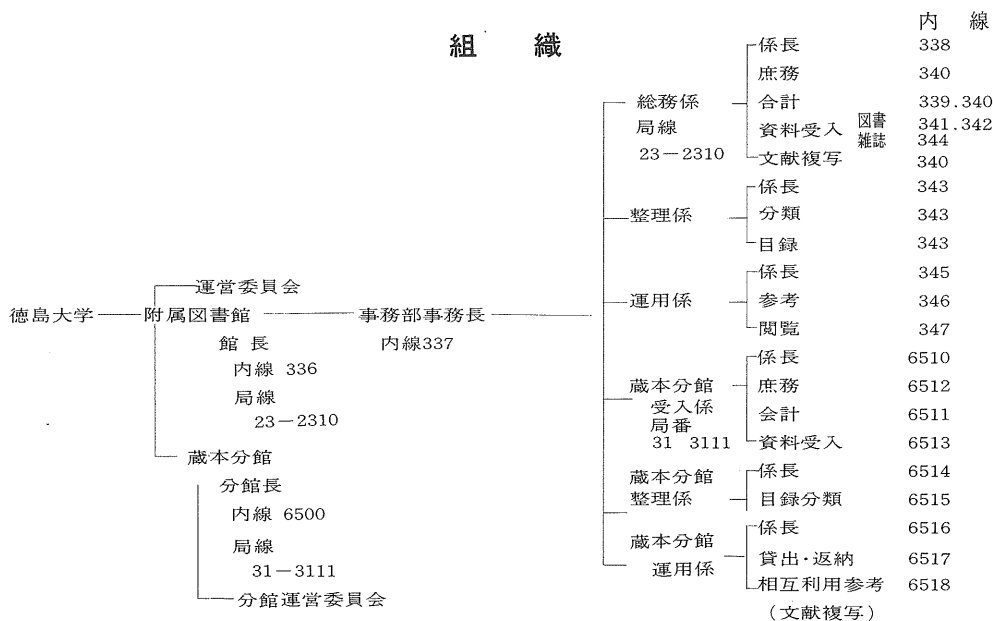
- 11月29日 第6回(昭和54年度)国立大学図書館
~30日 協議会中国四国地区協議会(於島根大
学附属図書館)出席者 館長 松本淳
治 総務係長 今倉 卓
同係長会
出席者 運用係長 助岡 君二

来館者

(昭和54年4月1日~12月13日)

- 8月13日 駐日エジプト大使
カーリル・サード博士外3名
- 9月1日
~2日 国際医学情報センター 天野善雄氏
- 9月28日 徳島行政監察局長 宮地靖郎氏
- 10月3日 鳥取大学附属図書館
~4日 総務係長 森本 毅氏
受入係長 村上 一雄氏
- 11月5日 東京大学アイソトープ総合センター
事務部業務掛 大日方京子氏
- 11月10日 山口大学附属図書館
雑誌係長 竹永久太郎氏
- 11月13日 東京工業大学附属図書館
目録掛 兵永 朗氏
- 12月13日 筑波大学図書館部運用課
主任専門職員 北原 昭吉氏
学術情報課 参考第二係長
佐々木 明氏

組織



(文献複写)

図 書 館 統 計

蔵 書 数

(昭和54年 3月31日現在)

	図 書			雑 誌		
	和 書	洋 書	計	和 書	洋 書	計
附属図書館(本館)	冊 197,550	冊 69,025	冊 266,575	種類 4,013	種類 1,688	種類 5,701
蔵本分館	60,980	52,625	113,605	2,091	2,205	4,296
計	258,530	121,650	380,180	6,104	3,893	9,997

年間受入数

(昭和53年度)

	図 書			雑 誌		
	和 書	洋 書	計	和 書	洋 書	計
附属図書館(本館)	冊 11,107	冊 4,188	冊 15,295	種類 2,167	種類 1,033	種類 3,200
蔵本分館	2,565	2,880	5,445	736	882	1,618
計	13,672	7,068	20,740	2,903	1,915	4,818

利 用 人 員

		附属図書館(本館)	分 館	計
利 用 人 員	教 職 員	3,325 人	12,582 人	15,907 人
	学 生	89,895	23,689	113,584
	そ の 他	489	386	875
	計	93,709	36,657	130,366

貸 出 冊 数

		附属図書館(本館)	分 館	計
貸 出 冊 数	教 職 員	17,201 冊	24,155 冊	41,356 冊
	学 生	18,607	15,479	34,086
	そ の 他	0	0	0
	計	35,808	39,634	75,442

視 聴 覚 利 用

		附属図書館(本館)	分 館	計
視 聴 覚	教 職 員	0 人	4 人	4 人
	学 生	253	0	253
	計	253	4	257

文 献 複 写 (人数)

		附属図書館(本館)	分 館	計
文 献 複 写	教 職 員	3,213 人	2,924 人	6,137 人
	学 生	182	438	620
	そ の 他	364	1,063	1,427
	計	3,759	4,425	8,184

文献複写(枚数)

		附属図書館(本館)	分館	計
文献複写	教職員	47,724 枚	28,925 枚	76,649 枚
	学生	1,109	5,305	6,414
	その他	4,446	13,262	17,708
	計	53,279	47,492	100,771

相互利用(人数)

		附属図書館(本館)	分館	計
相互利用	教職員	344 人	986 人	1,330 人
	学生	12	138	150
	その他	199	2,271	2,470
	計	555	3,395	3,950

相互利用(件数)

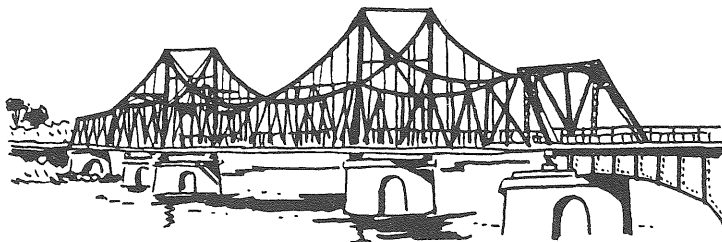
		附属図書館(本館)	分館	計
相互利用	教職員	1,046 件	1,895 件	2,941 件
	学生	91	220	311
	その他	492	2,271	2,763
	計	1,629	4,386	6,015

参考調査(人数)

		附属図書館(本館)	分館	計
参考調査	教職員	1,415 人	3,242 人	4,657 人
	学生	1,077	2,213	3,290
	その他	5	71	76
	計	2,497	5,526	8,023

参考調査(件数)

		附属図書館(本館)	分館	計
参考調査	教職員	2,226 件	4,899 件	7,125 件
	学生	1,172	3,437	4,609
	その他	6	192	198
	計	3,404	8,528	11,932



外国雑誌購入費（文部省）による購読雑誌リスト

* 印は附属図書館（本館）、無印は蔵本分館
備付け雑誌

- * 1. Accounts of Chemical Research. (USA).
- 2. Acta Neurologica Scandinavica. (DNK).
- 3. Acta Odontologica Scandinavica. (NOR).
- * 4. Advances in Mathematics. (USA).
- * 5. Agents and Actions. (SCH).
- 6. Anatomische Anzeiger. (DEU).
- * 7. Annalen der Physik. (DEU).
- 8. Annals of Rheumatic Diseases. (GBR).
- * 9. Annals of Statistics. (USA).
- 10. Archives of Virology. (AUT).
- *11. Arkiv for Matematik. (SWE).
- 12. Arzneimittel-Forschung. (DEU).
- 13. Australian Journal of Chemistry. (AUS).
- *14. Australian Journal of Physics. (AUS).
- *15. Biometrics. (USA).
- 16. Biophysical Chemistry. (NLD).
- *17. Biotechnology and Bioengineering. (USA).
- *18. Brain Research Bulletin. (USA).
- 19. British Dental Journal. (GBR).
- *20. Canadian Journal of Physics. (CAN).
- *21. Canadian Journal of Psychology. (CAN).
- 22. Canadian Medical Association Journal. (CAN).
- 23. Cancer Immunology and Immunotherapy. (DEU).
- 24. Chemistry and Physics of Lipids. (Ireland).
- 25. Clinical Research. (USA).
- 26. Clinical Science and Molecular Medicine. (GBR).
- 27. Community Dentistry and Oral Epidemiology. (DNK).
- *28. Computers and Industrial Engineering. (USA).
- 29. Current Microbiology. (DEU).
- 30. Dental Laboratory Review. (USA).
- 31. Dental Technician. (GBR).
- 32. Diabetologica. (DEU).
- *33. Discourse Processes. (USA).
- *34. Entomological Review. (USA).
- 35. Environmental Research. (USA).
- 36. Fortschritte der Kieferorthopadie. (DEU).
- *37. Geochemistry International. (USA).
- *38. Geo-Processing. (NED).
- *39. IEE Proceedings, pt.G: Electronic Circuits and Systems.(GBR).
- *40. pt.H: Microwaves, Optics and Acoustics.(GBR).
- *41. pt.I: Solid-States and Electron Devices.(GBR).
- 42. Industrial and Engineering Chemistry. (USA).
Fundamental., Process Design Development., Product Research
and Development.
- 43. International Archives of Allergy and Applied Immunology.(H).

44. International Dental Journal. (GBR).
45. International Journal of Biochemistry. (USA).
46. International Journal of Orthodontics. (USA).
- *47. Journal d'Analyse Mathematique. (ISR).
- *48. Journal of Applied Mechanics and Technical Physics. (USA).
49. Journal of Bioenergetics and Biomembranes. (USA).
50. Journal of Biomedical Materials Research. (USA).
51. Journal of Cell Science. (GBR).
52. Journal of Chromatographic Sciences. (USA).
53. Journal of Clinical Orthodontics. (USA).
54. Journal of Clinical Periodontology. (DNK).
55. Journal of Dentistry. (GBR).
56. Journal of Endodontics. (USA).
- *57. Journal of Energy. (USA).
58. Journal of Experimental Biology. (GBR).
- *59. Journal of Experimental Child Psychology. (USA).
- *60. Journal of Geometry. (SCH).
61. Journal of Neural Transmission. (AUT).
62. Journal of Neurological Sciences. (NLD).
63. Journal of Oral Rehabilitation. (GBR).
64. Journal of Periodontal Research. (DNK).
65. Journal of Pharmacokinetics and Biopharmaceutics. (USA).
- *66. Journal of Physics, E: Scientific Instruments. (GBR).
- *67. Journal of Power Sources. (SCH).
68. Journal of Speech Hearing Disorders. (USA).
- *69. Journal of Textile Institute. (USA).
 Textile Institute and Industry., Textile Progress.,
 Textile Institute, Annual Report.
70. Macromolecules. (USA).
71. Medical and Biological Engineering and Computing. (GBR).
72. Molecular Immunology. (GBR).
73. Mutation Research. (NLD).
74. Oesterreichische Zeitschrift fur Stomatologie. (AUT).
75. Pediatric Research. (USA).
76. Pharmacology and Therapeutics in Dentistry. (USA).
77. Philosophical Transactions of the Royal Society of London,
 Ser. B: Biological Sciences. (GBR).
- *78. Portugaliae Mathematica. (PRT).
- *79. Proceedings of the Royal Society, Ser. A.(GBR).
- *80. Psychological Bulletin. (USA).
81. Quarterly Journal of Medicine. (GBR).
82. Quintessence International, Dental Digest. (DEU).
83. Recueil des Travaux Chimiques des Pays-Bas. (NLD).
- *84. Review of Scientific Instruments. (USA).
- *85. Soviet Applied Mechanics. (USA).
86. Spectrochimica Acta, pt.A: Molecular Spectroscopy. (GBR).
87. Stomatologie der DDR. (DEU).
88. Synthetic Communications. (USA).
89. Zahn-Technik. (DEU).
90. ZWR:(Zahnarztliche Welt). (DEU).

雑誌目録の刊行について

御高承のとおり、学術研究の急速な発展とともに、研究の成果として発表される学術情報の量は、急激に増大しています。

この学術情報の円滑な流通を計り、学術研究の発展に寄与することは、大学図書館の重要な任務であると存じます。

幸い、一次資料の伝達に不可欠な雑誌目録を、全学的御支援と、図書館運営委員会の御協力を戴き、昨年度は欧文編をお届けできました。引続き今年度も和文編の作成について、御支援と御協力を賜り感謝している次第です。

今回の和文編の刊行で、本学の雑誌目録は欧文編・和文編と整い、学内所蔵雑誌の全学的利用に、あるいは他大学、研究諸機関との学術情報交換に寄与するところ少なくないものと在じます。

和文編の編成にあたりましては、教室の方々に御協力を頂きましたことを深く感謝いたしております。

和文編の原稿カードは、本館・分館合せて6183枚の多きを数え、その編集にも苦勞いたしました。何分日常業務に追われながらの作業でしたので、不備な点多々あろうかと存じますが、後日の改訂をまつとして、御寛恕下さるようお願いいたします。

現在原稿カードの編成を終え、印刷原稿を逐次校正中で、年度末にはお手許にお届すべく努力いたしております。

マイクロフィルム版

朝日新聞 大阪版の案内

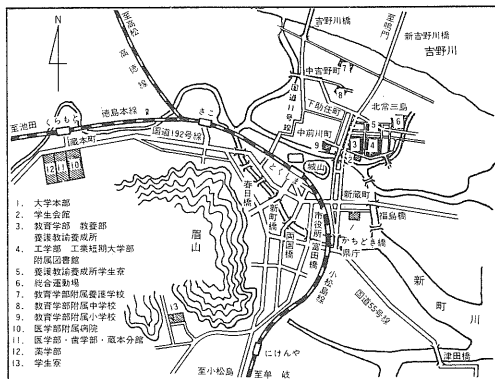
附属図書館では常三島地区の各学部、教養部及び短大の御協力による地区プール分図書費のうちから、上記新聞のマイクロ版年次計画で購入して備えつけ利用に供しています。

現在のところ創刊号（明治12年1月25日）から大正10年12月分まで揃い、以後継続して購入する予定です。

フィルムの形態は35ミリのロールフィルムです。リール数は379となっております。

利用については、一般図書と同じですが、貸出しは致しません。図書館備え付けのリーダー等を使用して閲覧して下さい。なお詳細については運用係まで照会して下さい。

位置図



所在地

〒770

附属図書館 (本館) 徳島市南常三島町2丁目1番地

電話 徳島(0886)23-2310

〒770

蔵本分館 徳島市蔵本町3丁目18番地の5

電話 徳島(0886)31-3111

目 次

巻 頭 言…………… 1 増改築された蔵本分館…………… 5 附属図書館予算の仕組…………… 7 学外文献複写の利用の 改善について…………… 7 JOISオンライン文献情報検索に ついて…………… 8 サンディエゴの小学校…………… 10 図書館にこんな便利な 機械があります…………… 11 附属図書館文化行事…………… 12	日本近代文学展…………… 12 日本現代地図展…………… 12 会 議…………… 13 来 館 者…………… 14 組 織…………… 14 図書館統計…………… 15 外国雑誌購入費(文部省)による 購読雑誌リスト…………… 17 雑誌目録の刊行について…………… 19 マイクロフィルム版…………… 19 あとがき…………… 20
---	--

開 館 時 間

授 業 期		休 業 期	
月 ~ 金	土	月 ~ 金	土
9時~20時	9時~16時30分	9時~17時	9時~12時30分

あ と が き

あけましておめでとうございます。

新しい年を迎えると同時に待望の館報が再刊され、皆様のお手許にとどけることができました。54年度はこの号だけですが次回からは年2回を目標に継続して発行したいと考えております。図書館をより良くし、利用し易いものにするために、建設的な御意見をお寄せ下さい。原稿はこの係にお渡し下さって結構です。お待ちしております。

また、図書館から投稿を依頼することもあるかと思いますが、その時には貴重な体験などを御披露下さいまして親しみのある館報になる様御協力をお願いします。

久しぶりの館報発行ということで、編集者もとまどいがちでまとまらないこともあって読みずらい点もあるかと思ひます。ご容赦下さい。

館報の将来に、図書館と共に栄光あれ！

「館報」題字：松本 淳治（附属図書館長）

表紙構成：村上 正典（教育学部 助教授）

編集：発行 徳島大学附属図書館

(〒770) 徳島市南常三島町2丁目1番地 徳島(0886) 23-2310 内線(338)